

令和の時代に、花が咲き、実がなる時を待ち望んで！ 理事長 飯野 順子

元号が「令和」と変わりました。その手話は、未来に向かって、花のつぼみが開いていくイメージだそうです。やがて、花が開く時がくることをイメージできる元号です。未来に向かって、私たちが咲かせたいのは、生涯にわたって学び続ける「喜びの花」です。

先般「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議」で、「訪問カレッジ」の活動を報告しました。その会議の報告書「障害者の生涯学習の推進方策について～誰もが、生涯の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して～」が平成31年3月にできました。その会議の最終回を傍聴して、湧いてきた思いは、「私たちは、これまで医療的ケアの必要な方々の生涯学習の種まきをし、その芽が育ち、やっと双葉になっているところです。本報告書は、やがては青葉が繁り、おおきな樹になることを期待している関係者にとっては、基盤となる立派な植木鉢のプレゼントをもらった！」です。



これまで、方向性も指針も何もない状況で、歩んできましたが、時を刻んでいけば、着地点が見えてくると、感じました。このことに関連する「報告書」の記述を引用します。

重度・重複障害者にとっての学習は、人や社会とのつながりを持つ上でも大変重要なものである。本人や保護者、支援者には、学校に就学している間にできていた学習や周りの人との交流を卒業後も継続したいとの希望が極めて強いことも念頭に置いて、学びの場づくりを進める必要がある。

このほか、本有識者会議においては、在宅での学習に係る意見もあったことから、文部科学省においては、関係省庁との連携も図りながら、在宅での生涯学習の機会を設ける取組について、障害者にとっても学びやすい遠隔学習の在り方も含めて、優れた実践事例から研究を進める必要がある。

この報告書を手にして、今、私たちに求められていることは、「優れた実践事例」です。このことは、訪問カレッジの学生さんの学ぶ姿で、実証済ではありますが、更に実証を積み重ねたいと考えています。

また、本報告書には、目指す社会像として、「障害者が、健康で生きがいのある生活を追求することができ、自らの個性や得意分野を生かして参加できる社会であること」とあります。「訪問カレッジ」の活動は、この理念の実現に寄与しています。



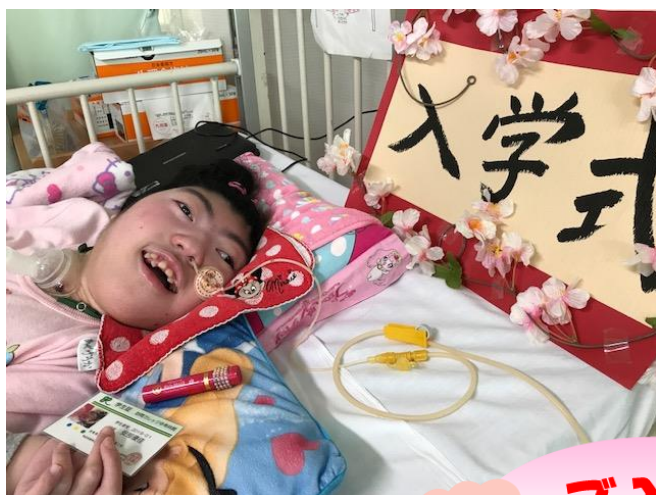
2019年度 新入学生紹介

2019年度の新入生は4名になりました。進級された15名とあわせて、本年度は17名の学生が学んでいます。

安部優佳さん（令和元年度入学生）

3月に都立小平特別支援学校高等部を卒業しました。

5月8日に入学式を行い、学生証をいただいて、希林館の皆さんの仲間入りをしました。嬉しくて思わずニコニコしてしまいました。音楽や本読み、手芸やお料理、季節の行事など大好きなことややりたいことがたくさんあります。一週間に一度の授業を楽しみにして、充実した時間を過ごしたいです。どうぞよろしくをお願いします。



横川昂平さん（令和元年度入学生）

横川昂平です。都立小平特別支援では佐藤豊さんの3年後輩です。高等部卒業の後、太陽福祉センターとあさやけ風の作業所に通っていましたが、今年度から訪問カレッジの学生として楽しもうと思っています。

カレッジでやりたいと思っていることは、♪四季折々の音楽を聴いて、季節を味わいたいです。♪元々流行には敏感なので、今流行の曲なども聴きたいです。J-POP、洋楽、ロック、クラシック、アニメ…何でもOKです。

♪詩や物語も色々読みたいです。



ご入学
おめでとう



学びの風景

伊田葉月さん（平成29年度入学生）

授業で絵を描いています。楽しくて時間を忘れて没頭しがちです。課外授業では、東京都美術館に絵を見に行ったりしました。

好きな絵は、繊細なタッチの風景画です。透明感のある作品が好きです。



佐藤友哉さん（平成26年度入学生）

DAISY 図書をご存じですか？視覚障害のある方など通常の印刷物を読むのが困難な方のためにカセットテープに代わる録音図書の規格です。公益財団法人伊藤忠記念財団は、「すべての子どもたちに読書の喜びを」と、読み書き障害やページをめくるのが困難な方へパソコンやタブレット端末で読む「わいわい文庫」というマルチメディアデージー図書の普及活動をされています。本研究所にも毎年たくさんタイトルの本が入った CD-ROM を送っていただいています。



友哉さんは昨年、この「わいわい文庫」から本を選んで、あらすじと感想をまとめて、感想文集をつくりました。今年、伊藤忠記念財団への活用報告の際に、感想文集を添付したところ、「毎年発行している『わいわい文庫活用術⑧』に原稿を書いて欲しい」と依頼がありました。それと「ぜひ、会ってお話を…」ということで、5月27日（月）に伊藤忠記念財団の矢部剛様がお見えになりました。早速、友哉さんとオセロで対戦してもらい、友哉さんが圧勝しました。



原稿締め切りは12月15日です。学びの中で一緒に原稿を書いていきます。お楽しみに。



矢部剛氏（伊藤忠記念財団）

第37回 肢体不自由児・者の美術展・デジタル写真展 書の部門 厚生労働大臣賞受賞 福島功太郎さん おめでとうございます

当法人の事務所の看板と通信「やまびこ」の題字を書いてくださった福島功太郎さんが、厚生労働大臣賞を受賞されました。



福島さんの書道歴は15年を超えます。都立八王子東特別支援学校中学部1年在学中から、東京都特別支援学校文化連盟の書道研究会が夏休みに行っている親子書道教室に参加、卒業後はこの親子書道教室に参加していたメンバーで設立した、悠友書道会に所属して活動を続けてきました。現在は、『sai』という会で地道に練習にとり組み、『sai』の書道展に参加するなど、なおいっそう活動の幅を広げられています。また、この受賞が評価されて、日野市文化・スポーツ功労者顕彰を受けました。福島さんのさらなるご活躍を応援しています。

※『sai』は、悠友書道会の講師を務められた書家の井上沙織先生を中心に、障害のある方もない方も一緒に活動している会です。『sai』の名前には、彩りゆたかな文字作品の集合体という【彩】の意味が込められているそうです。



文部科学省の動向から

文部科学省は、「学校における医療的ケアの今後の対応について(通知)」(平成31年3月30日)や「障害者の生涯学習の推進方策について一誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び生きる共生社会を目指して一(報告)」(平成31年03月29日)を発表しています。ぜひ、文部科学省のホームページからダウンロードしてお読みください。

第6回訪問カレッジ文化フェスタの予定

年に1回、学生による学びの発表や作品展、音楽会による訪問カレッジ文化フェスタも6回目となります。以下の予定で開催しますので、予定しておいてください。

1. 日時 2019年11月10日(日)
13時30分~15時30分
2. 会場 東京都立小平特別支援学校 音楽室
(最寄り駅 西武国分寺線小川駅 徒歩8分)
3. 参加費 無料

「賛助会員」の募集

- 1 賛助会員の年会費は
 - ・個人 一口 3,000円
 - ・団体・法人一口 10,000円 です。(何口でも構いません)
- 2 ご賛同いただける場合は、振込用紙をご利用いただき、郵便振替口座にお振り込み下さい。
- 3 「訪問カレッジ通信『やまびこ』」を年2回発行し、お届けします。

※会費は、フォーラム、文化フェスタ、通信の印刷・送料に充てさせていただきます。
賛助会員数 個人67名 団体5 (2019.5.29 現在)

【振替口座】
口座名 トクヒ) チイケアサポートケンキュウショ
口座番号 00110-2-616037